

女性研究者研究活動支援事業シンポジウム 2014

2014. 11. 26

@一橋講堂

グループF; 連携(地域・企業)・ネットワーク構築

座長; 伊達 紫 (宮崎大学)

参加機関; 22

参加者; 31名

- 宮崎大学における「連携・ネットワーク構築」の取組み
- 分科会で明らかとなった「連携・ネットワーク構築」の課題
- 分科会参加機関の中の優れた取組み一金沢大学

九州・沖縄アイランド 「連携・ネットワーク構築」のきっかけ

- 平成21年1月～3月;「女性研究者支援モデル育成」(女性研究者研究活動支援事業 一般型)実施機関である九州大学、熊本大学、宮崎大学とで、九州・沖縄をつなぐネットワークの構築について意見交換。
- 九州・沖縄アイランドシンポジウムを開催してはどうか。
- アイランドシンポジウムでは、九州・沖縄8国立大学法人の担当理事あるいは副学長によるパネルディスカッションを開催し、「女性研究者支援事業や男女共同参画推進は、外部資金の有無にかかわらず、大学として取り組むべき課題」という理念を共有する。

九州・沖縄アイランド 「連携・ネットワーク構築」のあゆみ

- 平成21年9月「宮崎発！第1回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム」を開催。
- 九州・沖縄8国立大学法人の担当理事あるいは副学長全員が参加したパネルディスカッションを実施。
- 平成21年から平成26年まで、宮崎大学、佐賀大学、長崎大学、大分大学、九州大学、熊本大学と年1回の持ち回り開催が定着。
- 平成27年度は、鹿児島大学が、平成28年度は琉球大学が、平成29年度は福岡女子大学が主管校となり開催する。



大学・地域・社会の
連携と多様性の実現
社会変革に向けた大学の役割

第6回

九州・沖縄アイランド
女性研究者支援シンポジウム in 熊本

2014年9月20日(土)

熊本大学工学部百周年記念館
(熊本市中央区黒髪2-39-1 熊本大学黒髪南地区キャンパス)

13:00-17:30
(受付 12:30~)

入場無料
託児あり

【主催】国立大学法人熊本大学
【共催】九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea) 加盟大学
九州大学男女共同参画推進室、宮崎大学清花アチナ男女共同参画推進室、佐賀大学男女共同参画推進室、長崎大学男女共同参画推進センター、大分大学男女共同参画推進室、鹿児島大学男女共同参画推進センター、琉球大学男女共同参画推進室、うなひ研究者支援センター、沖縄科学技術大学院大学人材多様化セクション、福岡大学次世代女性研究者支援室、福岡女子大学女性研究推進室
一般社団法人九州コンソーシアム熊本、一般社団法人国立大学協会 教育・研究委員会 男女共同参画小委員会
【後援】熊本県、熊本市

お申込・お問い合わせ ※当日の参加もできますが、事前申込にご協力ください。

熊本大学男女共同参画推進室
〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL & FAX : 096-342-3281
http://gender.kumamoto-u.ac.jp
E-mail: gender2@jimu.kumamoto-u.ac.jp



【交通アクセス】



【交通センターから】
□ 直交バス・電鉄バス 大津、橋頭地、武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車
【JR熊本駅から】
□ 都市バス 第1環状線「子飼橋」下車、徒歩10分
□ 直交バス 大津方面行き「熊本大学前」下車
【JR上熊本駅から】
□ 都市バス 第1環状線、菊和町行き(子飼橋経由)「子飼橋」下車、徒歩10分
【JR電田口駅から】
□ 直交バス 交通センター行き「熊本大学前」下車

マップの制作：今田淳子(現代美術科)/熊本大学大学院国際学際文化学部国際教育専攻

第6回

九州・沖縄アイランド
女性研究者支援シンポジウム in 熊本

特別講演

「IBMの経営とダイバーシティ」

ダイバーシティは、社会に新しい風を吹き込んで刺激を与え新たな価値を創造するために不可欠なもの。誰もが自らの力を十二分に発揮し貢献できるインクルーシブな社会環境の整備が急がれます。



橋本孝之氏

日本アイ・ビー・エム株式会社 会長

1954年愛知県生まれ。1978年名古屋大学工学部卒業後、日本アイ・ビー・エム株式会社に入社。90年米国IBMコーポレート・ビジネス・ストラテジー出向を経て、2000年日本アイ・ビー・エム取締役ゼネラル・ビジネス事業部長。常務、専務を経て、2009年代表取締役社長、2012年取締役会長、2014年4月から現職。

シンポジウム開催までのプロセス

- 主管校によるテーマの提案。
- パネルディスカッション等における論点をQ-weaで協議。
- 主管校による最終調整。

ボトムアップ
実務者による企画案

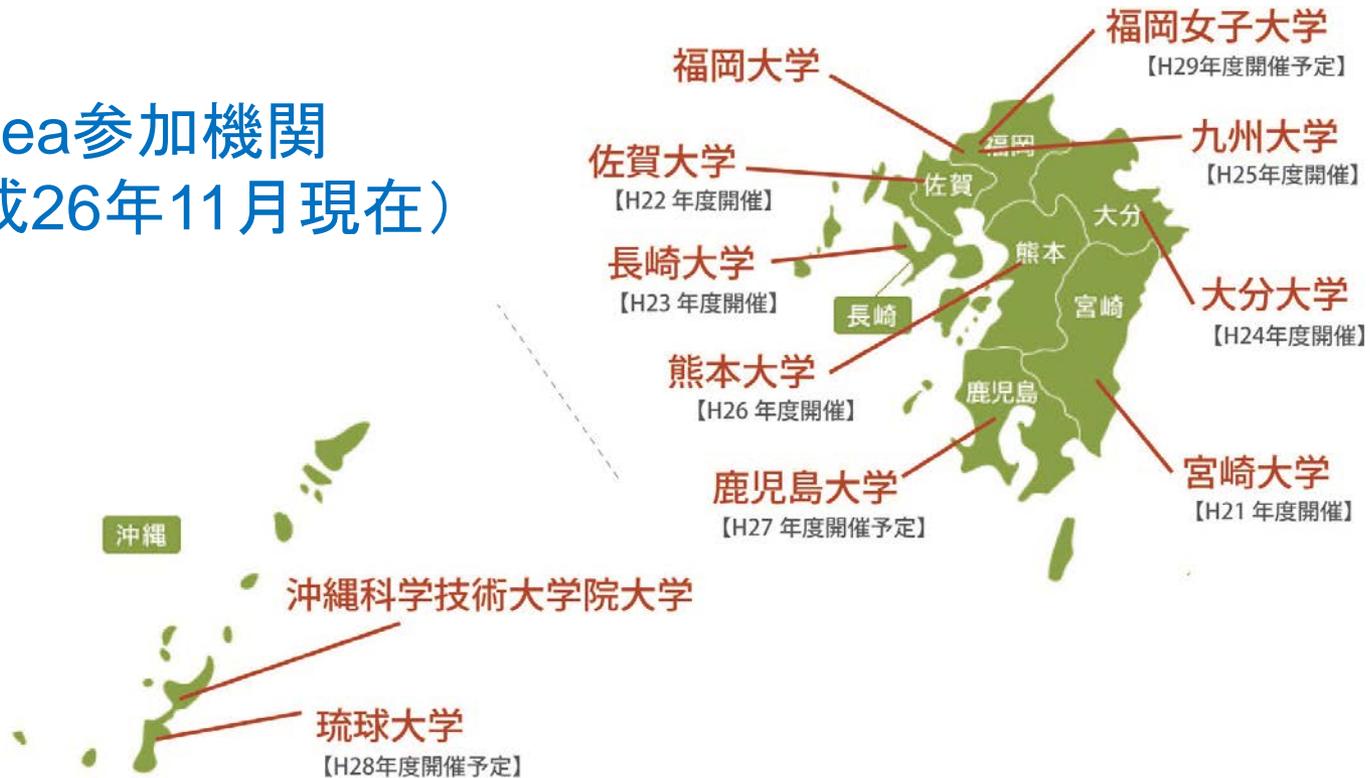
+

トップダウン
パネルディスカッション

九州・沖縄アイランド 「連携・ネットワーク構築」の成果

- 基調講演や特別講演に加え、平成21年から26年まで、理事・副学長によるパネルディスカッションは継続して実施している。
- パネルディスカッションの継続は、「女性研究者支援事業や男女共同参画推進は、担当者だけの仕事ではなく、大学として取り組むべき課題」という意識の共有。
- 「第1回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム」の開催を契機に、実務者ネットワーク「Q-wea; Q-Women's encouragement/empowerment association」が発足。現在、11の大学が参加し活動を続けている。

Q-wea参加機関 (平成26年11月現在)



- 平成26年10月より宮崎大学に「Q-wea事務局」を設置
 - e.g. Q-wea参加校より学習会の企画案→企画校とともに日時、場所などを事務局でコーディネート→情報配信→学習会の実施。
 - Web siteの再構築。
 - 参加希望機関からの問い合わせ等への対応、など。

グループF; 連携(地域・企業)・ネットワーク構築

参加機関; 22

参加者数; 30名

山形大学

高知大学

山梨大学

JAXA

室蘭工業大学

秋田大学

宮崎大学

東京女子医科大学

京都府立大学

武庫川女子大学

広島大学

長崎大学

静岡大学

東京医科大学

弘前大学

岩手大学

金沢大学

神戸大学

熊本大学

信州大学

お茶の水大学

群馬大学

- 「連携・ネットワーク構築」に関する取組みを実施したことがある機関; 10機関

- ◆ 次世代育成事業の共同開催
- ◆ コンソーシアムの設立
- ◆ 交流会、協議会、シンポジウムの開催
- ◆ 同窓会組織との連携
- ◆ 育児をテーマとした連携 など

- 「連携・ネットワーク構築」に関する取組みを実施することにより得られた効果

- ◆ 研究者および実務者間交流の促進
- ◆ 支援制度の波及
- ◆ 行政とのネットワーク形成の推進
- ◆ 連携による保育サービスの充実
- ◆ 連携機関での表彰およびインターンシップの試み など

- これから実施してみたい取組み

- ◆ 企業との連携強化
- ◆ 行政との連携を通じた大学の役割認識 など

「連携・ネットワーク構築」に関する課題

● 企業との連携体制の構築

- ◆ 調整に時間がかかる。物理的にも離れている。
- ◆ 研究内容によってはすべてオープンにできるわけではなく、共同研究の推進やネットワーク構築が困難なことも多い。

解決策は？

- ◆ 連携可能なパートとそうでないパートを明確にする。
 - 保育サービスの共同利用 ○
 - ロールモデルの提示 ○
 - 新製品開発部門へのインターンシップ ×
 - 共通のテーマを掲げた共同研究へ女性研究者をプロモートする。 ○
- ◆ 企業との橋渡し役を活用する。
 - ITを活用した交流・意見交換
 - 同窓会組織を通じた企業との連携
 - 産学官連携センターなどを通じたパートナー選び
 - 地域の中に積極的にとけ込んでいく。

「連携・ネットワーク構築」に関する課題

- 女性研究者の増員や上位職への登用へつながる「連携・ネットワーク構築」
 - ◆ 「連携・ネットワーク構築」をどのように女性研究者増員や上位職登用へとつなげていくのか。

解決策は？

- ◆ 共同研究リーダーの養成
研究に関するメンターはもちろんのこと、理事や副学長にマネジメントのメンターとして機能してもらう。
- ◆ 各機関ごとに採用時期を工夫する。
各部や学科で公募時期を一定にする（H26 九州・沖縄アイランドシンポでの意見；OIST 久保副学長より）
たとえば、「助教を1名公募する」のではなく、〇〇学部〇〇学科は、「上半期には助教3名、講師2名、准教授2名を公募し、3割は女性を採用する」など。



意識改革

環境整備

M字カーブを描かないための支援

5年後、10年後には、確実に上位職に就ける女性研究者を育成する。